

経済・金融 フラッシュ

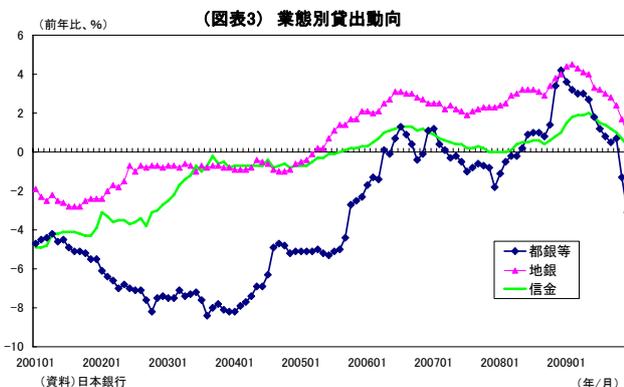
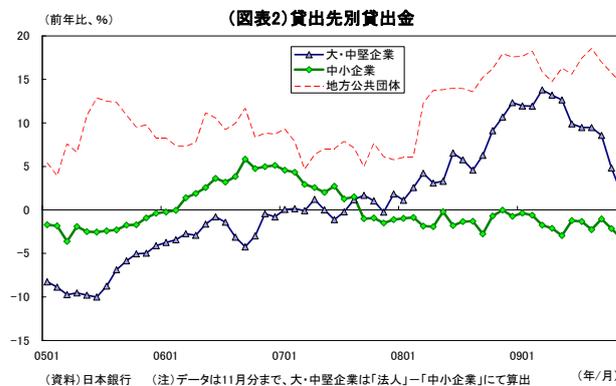
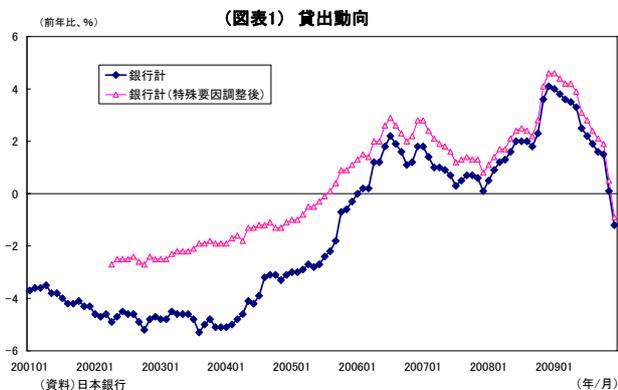
12月マネー動向： 銀行貸出は4年ぶりの前年割れ

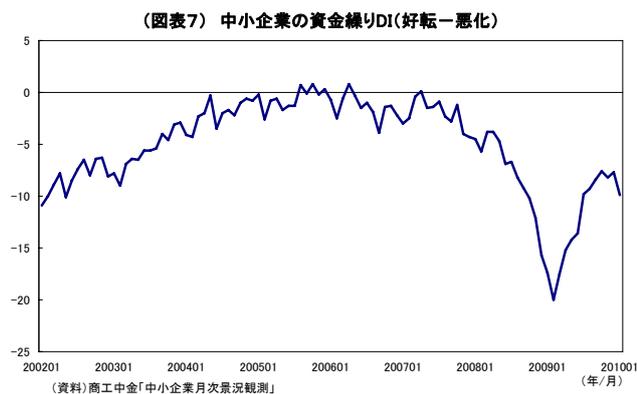
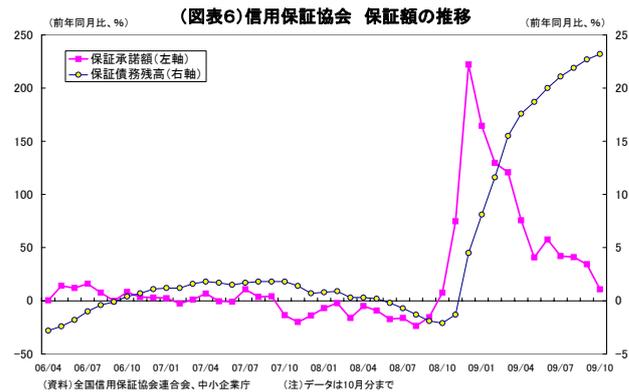
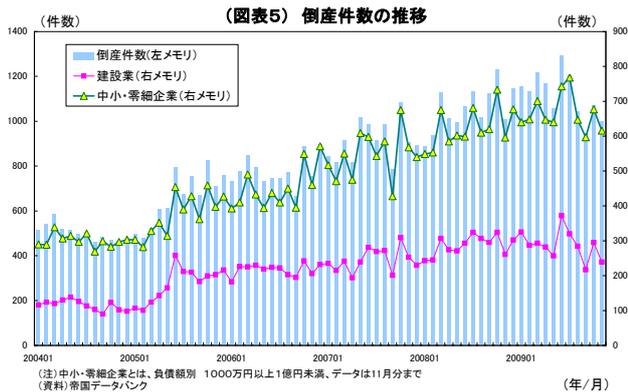
経済調査部門 副主任研究員 上野 剛志
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

1. 貸出動向：都銀は前年比マイナス幅を拡大

日銀の貸出・資金吸収動向等によると、12月の銀行総貸出(平残)の前年同月比伸び率は▲1.2%(前月は0.1%)と4年ぶりの前年割れとなった。都銀等では同▲3.1%(前月は▲1.3%)とマイナス幅が大きく拡大した。比較対象である08年12月はリーマン・ショック後の金融市場の混乱に伴う貸出の急増が生じていた時期であり、その反動が出ているというテクニカルな面もあるが、企業の設備・運転資金の需要低迷により、銀行貸出残高自体が弱めに推移しているという要素も否めない。

銀行貸出は昨年4月頃まで高い水準での推移が続いたこともあり、当面は前年比マイナスの状態が続くだろう(図表1~4)。



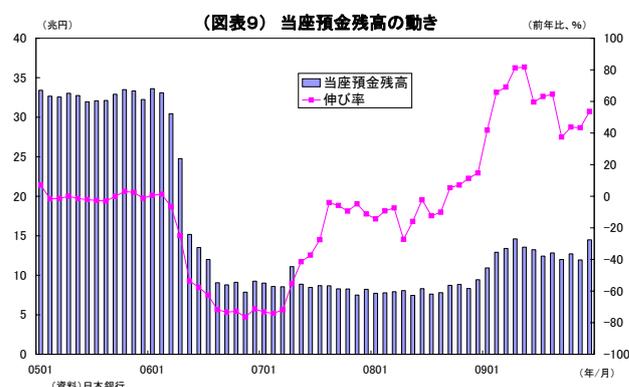
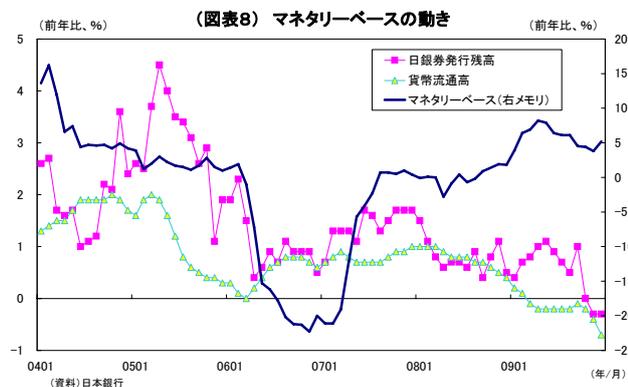


中小企業向け貸出残高は直近判明分の 11 月段階で前年比▲3.3%と引き続きマイナス圏での推移が続いている。12 月初旬に施行された「中小企業金融円滑化法」(中小企業向け貸出の返済猶予等を金融機関に促す法律)の効果が出てくるのか、今後の動きに注目だ(図表 2, 5~7)。

2. マネタリーベース：追加緩和を背景に伸び率が再び拡大に転じた

日銀による資金供給量を示す 12 月のマネタリーベースは、前年同月比 5.2%増(前月は 3.8%増)となった。16ヶ月連続の前年比プラスだが、伸び率の拡大は 8ヶ月ぶり。日銀が 12 月より新しい資金供給オペを導入し、積極的に資金供給を行った結果、当座預金残高が前年比 53.6%増(前月は 43.4%増)と再び拡大に転じたことがこの要因(図表 8,9)。

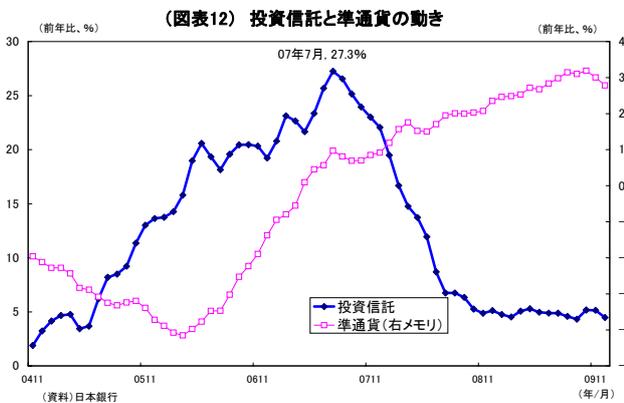
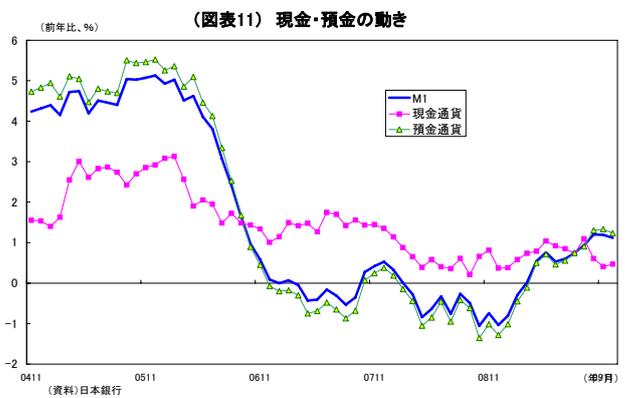
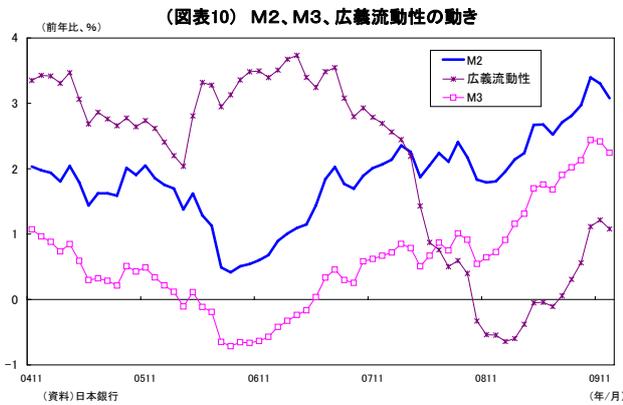
日銀の強い緩和姿勢は当面維持されるとみられ、マネタリーベースも高水準で推移する可能性が高い。



3. マネーストック：通貨供給量の伸びは引き続き高水準

通貨供給量の代表的指標である12月のM2（現金、国内銀行などの預金）平均残高は前年同月比3.1%増（前月は3.3%増）、M3（M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む）は同2.2%増（前月は2.4%増）と、それぞれ前月と比べやや低下したが依然として高い伸びが続いている（図表10）。定期預金などの準通貨の伸びが2.8%と高水準で推移していることが主因だが、普通・当座預金といった要求払預金（1.2%）も前年比プラスで推移している（図表11）。

なお、M3に投信や外債などを含めた広義流動性は前年比1.1%増（前月改定値は1.2%増）となり、広義流動性の伸びがM3の伸びを下回る状況が続いている（図表12）。投資信託の伸び率は、11月分が前月発表時の6.8%から5.1%に下方改定、12月分は4.5%とさらに低く、引き続き家計等のリスク回避スタンスの強さを表す結果となった。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。